

筑波大学新聞

第386号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 学食のCO₂排出量再び可視化
- オーケストラ・ウィルが熱演
- 蹴球部 5人がプロ内定会見
- 箱根駅伝 小山3区で11位相当
- 被爆者2人から若者へ伝言

ミニ特集

- 退職教員に聞く 研究者人生の軌跡 5
- スポーツ 筑波での青春を胸に 羽ばたくアスリート 6

筑波お話し

夢に向かって努力を積み重ねてきた。己を信じて頑張った。大学受験目前だった昨年12月の正月、中学時代の恩師から届いた年賀状に励まされた。受験当日もこの賀状を持って会場に行った。手書きの言葉に温かみを感じ、安心感と自信が湧いた。小学生の頃に年賀状を書き始めた。送る相手によって言葉を選ぶのが楽しい。遠方に住む親戚には感謝の言葉と健康を願う言葉を添え、友人やお世話になった先生方には近況報告する。今年は、大学入学後に講師のアルバイトを始めた学習塾の生徒にも応援メッセージを書いて送った。しかし、年賀状を出す人は減っているようだ。昨年ははがき代が63円から85円に値上げされたこと

ともあり、「年賀状じまい」という言葉が話題になった。日本郵便によれば、2025年用年賀はがきの発行枚数は前年比約25%減の約10億8000万枚だったという。周囲の友人たちに限れば、年賀状派はほとんどいない。SNS(ネット交流サービス)を使いあいさつするのが主流だ。1月1日午前0時を迎えると、メッセージがスマートフォンに次々と着信する。多数の友人に送ることも簡単だ。確かに便利だが、どうにも送る手の顔が見えにくいように思われる。時代が変われども、手書きの文字にしか伝えないことができないものがある。恩師のはがきが教えてくれた。年に一度しかない機会だ。来年も、手書きの年賀状を大切な人に送りたい。

スパコン「Miyabi」稼働

東大と共同運用 演算性能国内2位



Miyabiの前で解説する最先端共同HPC基盤施設の朴泰祐施設長(右)と千葉滋(左)副施設長=同施設提供

筑波大と東京大が共同で開発したスーパーコンピュータ「Miyabi」の運用が1月14日に始まった。学術用スパコンの性能ランキングで、国内では神戸市にある理化学研究所の「富岳」に次ぐ2位、世界では28位となる。地震の発生や宇宙のブラックホールのシミュレーション、生成人工知能(AI)研究などへの活用が期待されている。(書野心平=物理学科2年、川畑悠成=知識情報図書館学類1年)

Miyabiは東京大柏キャンパス(千葉県柏市)に設置され、筑波大と東京大が共同設置した最先端共同HPC基盤施設(JCA HPC)が運用する。期間は6年で、72億円の経費は筑波大と東京大が1対2の割合で負担する。新年度からは公募審査を経て、全国の研究者が利用できる。Miyabiは米エヌビディアの最新技術であるGPU(演算加速装置)とCPU(中央演算処理装置)を単一モジュール化した演算装置120台を搭載したMiyabi-G(1秒間に7.88京回の計算が可能)と、米インテル社の高性能CPUを380台搭載したMiyabi-C(1秒間に1300兆回の計算が可能)の二つのシステムからなる。このうち、Miyabi-Gがスパコンの総合性能を評価するテストで昨年国内2位となった。JCA HPCは2016、22年に先代のスパコンシステム(Oakforest PACS(OFP))を導入して運用してきた。Miyabiはその後継システムで、消費電力当たりの性能は約10倍に向上したという。JCA HPCの施設長を務める筑波大計算科学研究センター長の朴泰祐教授は「GPUを使用したスパコンが主流になることは間違いない。MiyabiはGPUを使用したことで、AIとの相性が良い。全国の研究者にMiyabiを利用してほしい」と話した。

軽いつり傷や微熱のみなど緊急性が低い状態で救急搬送された患者を「選定療養費」の徴収対象とする制度が昨年12月、筑波大附属病院を含む茨城県内22の大病院で始まった。救急医療の逼迫を回避し、一刻も早い重症者の治療につなげるため、県が導入を主導した。都道府県レベルでの導入は全国初。一方、県は「緊急の場合は選定療養費を徴収しないので、ためらわずに救急車を要請してほしい。判断を迷う場合は救急電話相談#7119に電話し、相談してほしい」とも呼びかけている。

不急の救急搬送で「選定療養費」

14万3046件で過去最多。6割以上が一般病床200床以上の病院に集中し、うち約半数が入院の必要がない軽症者だった。つくば市中央消防署の救急隊員は「現状では救急出動の約半数が軽症だ。本当に救急車を必要とする傷病者に対し、不要不急の出動が重なって対応が遅れる事案が発生しないか不安もある」と話した。

県医療政策課の担当者は「救急隊は救急車の要請を原則、拒否できない。医師の時間外労働規制が昨年強化され、救急医療がさらに逼迫する恐れがある」と導いた結果を公表予定だ。また、搬送を受け入れる筑波大附属病院救急センターの井上貴昭センター長(医学医療系・教授)は「特に一般病院が休診となる時間外や週末に搬送件数が増える。必ずしも高度救命救急センターの対応ではないような緊急性に乏しい患者さんの診療に追われる結果、大病院のベッドが逼迫し、他院に依頼してま

救急性が認められる症状

- 物を喉に詰まらせて、呼吸が苦しい
- 急な息切れ、呼吸困難
- けいれんが止まらない
- ふらつきが回りにくく、うまく話せない
- 突然、周りが二重に見える
- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど
- 血を吐く
- 突然の激しい頭痛
- 突然の激しい頭痛
- 胸や背中の突然の激痛
- 意識の障害(返事がなく、様子がおかしい、もうろうとしている)

など

救急性が認められない可能性のある症状

- 明らかに緊急性が認められない症状
- 軽い切り傷、擦り傷のみ
- 緊急性が低い症状
- 微熱のみ(37.4度以下)
- 風邪の症状のみ
- 打撲のみ
- 慢性的、あるいは数日前からの歯痛
- 慢性的、あるいは数日前からの腰痛
- 便秘のみ
- 眠れないのみ

など

緊急性が認められる症状

緊急性が認められない可能性のある症状

茨城県の資料を基に作成

三井不動産と連携協定

研究力と三井のノウハウ融合

筑波大と三井不動産は昨年12月20日、「産学連携の推進に関する協定書」を締結したと発表した。筑波大の先端研究力と三井不動産のコミュニティづくりのノウハウを生かし、筑波研究学園都市の発展を通じた新産業創造を目指す。

筑波大は2027年の完成を一気に行える産学連携を目的として、職員宿舎跡 携拠点「IMAGINE THE FUTURE Forum」(イメージフォーラム)に企業と人間の融合によるイノベーションを目指す。デジタル技術と共同で開発研究と実証実験(T.F.F.)の整備を進めて、タル・ヒューマンインペ

ション研究棟もキャンパス内に建設予定だ。こうした研究開発施設の企画に三井不動産のノウハウを盛り込むことで、サイエンスパークとしての筑波研究学園都市の魅力を一層高めたいという。

また、三井不動産が開発した東京都中央区日本橋エリアや千葉県柏市の柏の葉エリアとも連携を進め、エリアを地域に提供するプログラムを地域に提供することなどにより、筑波研究学園都市をはじめとした

地域社会にマルチスポーツを広めたいという。協定締結にあたり、永田恭介学長は「筑波研究学園都市の発展やマルチスポーツをはじめとした新しい日常を築くことで、世界に対するソーシャルインパクトを生み出したい」とコメントした。また、三井不動産の植田俊社長は「先端的な研究力と広い国際ネットワークを有する筑波大と協働し、新産業の創造を目指していく」とした。

本紙マスコットキャラ 名称「つくし」に決定



筑波大学新聞の公式マスコットキャラクターの名称「つくし」に決定しました。今後、紙面やSNS

(ネット交流サービス)で活躍してもらいます。名称は昨年12月18日から今年1月18日まで公募して32人から49件の応募がありました。「つくし」の提案者は尾上舜さん(物理2年)でした。編集部内で協議の末、採用を決めました。「つくし」は漢字で「土筆」と書きます。取材にペンが欠かせない記者の相棒にピッタリで、筑波大新聞の短縮形でもあります。花

でも入院病床を確保する必要性に迫られている。徴収開始後は軽症者の搬送が減り、一定の効果が出ているようだ」と語る。

同病院の過去の調査では、20年1~10月に同病院に救急搬送された筑波大生は1555人で、全救急搬送件数の約5割を占めた。9割以上は診察後に一人で歩いて帰宅可能で、約6割は緊急性がなかった。(根本聡子=国際総合学類3年、川畑悠成)

学食のCO₂排出量可視化 第2弾 利用者の行動変化分析



大豆ハンバーグ(左)と、ハンバーグを紹介する学生メンバー(昨年12月4日、1A棟食堂で)

学食メニューにカーボンフットプリント(CFP)を表示し、温室効果ガス排出量を見える化するプロジェクトの第2弾が昨年11月18日と12月20日、1A棟食堂「TSUKUBA TABLE」と医学食堂で実施された。食品の温室効果ガス排出量を学生や教職員が知り、環境に配慮した行動をとるきっかけになれば、DESIGN THE FUTURE機構(DTF機構)が主催した。

CFPは原材料調達から生産、運搬、廃棄、リサイクルに至る製品・サービスのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を二酸化炭素(CO₂)に換算して表示する取り組み。筑波大のプロジェクトでは、調理までの過程を対象にCFPを算出している。

CFPが学食メニューに表示されるのは昨年2月26日と3月8日に学内3カ所の食堂で実施して以来。前は期間が短く、期末試験の時期が重なったこともあり、利用者が限られた。今回は期間を倍以上とし、期末試験前に始めた。また、期間中の12月2と6日をスペシャルウィークと位置づけ、肉を大豆ミートに代替したハンバーグやラムカツなど低CFPメニューを日替わりで提供した。

さらに、1A棟食堂と医学食堂でメニュー表示の方式を変えた。1A棟食堂のメニューにはCFPの数値に加え、数値を3段階に色分けして「CFP表示ラベル」を導入した。カテゴリー別には高CFPなので赤色、チーフキーマカレーは低CFPなので緑色など、ラベルの色によりCFPの高低が分かる。

前回に引き続き、CFPは一般社団法人サステナブル経営推進機構が算出し、対象となった2つの学食を運営するシダックスコントラクトフードサービス(本社・東京都渋谷区)がメニュー提供などで全面的に協力した。

本プロジェクトの実施にあたっては、協力してくれた学生をDTF機構のウェブサイトなどで広く募集した。その結果、「環境サークルREVELOP」や「ECHOUT」などの学生団体、個人参加もあった。これらの学生メンバーがポスターや紹介ビデオの作成、メニュー表示などを担当した。CFP表示の効果は、アンケートや各メニューの売れ行き、イベント前後での学食からの廃棄物量の変化などの観点からDTF機構の教員と学生が協議して分析する予定だ。

DTF機構の西尾チツル機構長は「学生や教職員には、学食で感じたCFPによる『気づき』を、自分の生活に結びつけて理解してほしい。次は学生自ら、CFPの算出に挑戦してほしい」と話している。(主筆 奏太)地球学類1年、写真も)

新宿舍の設備充実を要望 全代会 副学長懇談会で

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(全代会)の構成員と副学長ら教職員が学生生活や学修について意見交換する懇談会が昨年12月4日、1A棟で開かれた。学生宿舎のリニューアルや学生の意見の福利厚生への反映などがテーマとなった。

当初、学生宿舎は2025年からリニューアル事業が開始される予定とされていたが、学生生活課によれば、物価高などの影響でスケジュールは調整中だ。宿舎費は現在、一般単身改修棟が約2万円だが、より高額になることが予想されている。

全代会は大学周辺の賃貸物件について、家賃(共益費・管理費込み)の価格帯ごとに設備を調査した。その結果、家賃が3万円以上の物件の9割以上がバス・トイレ別(セパレート)構造で、エアコンは価格帯を問わずほぼ完備されていることが明らかになった。

全代会は調査を踏まえ、新宿舎ではバス・トイレ別設備、エアコン、室内洗濯機置場を各居室の必須設備とするようを提案した。本間三和子副学長(学生担当)は「調査結果は自分も納得するところだ。今後も皆さんには議論に参加してもらい、新宿舎計画をより良いものにしてほしい」と話した。

教職員と学生で構成する筑波大の福利厚生委員会には、学内の意見を集約して福利厚生に反映する役割がある。全代会は食堂の値上げが相次いでいることなどを踏まえ、「委員会で学生

キャッシュレス決済対応 一の矢宿舎の洗濯機

一の矢学生宿舎1〜4号棟の洗濯機32台が昨年12月、キャッシュレス決済に対応した洗濯機に更新された。今後半年間かけ、学生宿舎の全ての洗濯機がキャッシュレス決済対応のものに更新される。1回の洗濯料金は200円が変わらない。今回、乾燥機は更新されない。

学生宿舎の洗濯機全368台と乾燥機全464台はファミリーレンタリース(本社・東京都八王子市)が管理・運営している。キャッシュレス決済は「AQRConnect」というアプリをスマートフォンにインストールして使う。それぞれの洗濯機に掲示されているQRコードを読み取り、決済方法を選択して支払い手続きを済ませる。

「学生生活課の担当者は、『学生から100円玉を持つのが大変だ、両替機がほしい』など、コインに関する要望があった。そこで昨年9月、運営会社から洗濯機更新の話があった際、キャッシュレス決済を打診した」と導入の経緯を説明した。

同宿舎に住む工学システム学類1年の学生は、「小銭を使うことに慣れたので、キャッシュレス決済は使っていない。入居直後など、導入のタイミングが早ければ利用していたかもしれない」と語った。(惣田 堅斗)心理学類1年、写真も)



キャッシュレス対応の洗濯機を利用する学生(2月11日、一の矢学生宿舎で)

悠仁さま 筑波大合格 生物学類にご入学へ

秋篠宮ご夫妻の長男悠仁さま(18)は筑波大附属高校から推薦された64人が受験し、競争倍率は約2.9倍だった。

悠仁さまのご入学について、永田恭介学長は昨年12月26日の定例記者会見で「(ご入学は)喜ばしい。伸び伸びと勉学に励んでいただきたい。総合大学の強みを生かして、ご関心のある自然誌だけでなく、幅広い学問に取り組んでいただきたい」と語った。また、英オックスフォード大などを例に挙げ、「郊外型の大学は寮で同世代の仲間たちともまねながら学ぶのが基本。希望を言えば、悠仁さまにも、寮で暮らしていただけたらいいと思う」と述べた。

さらに、キャンパス内の街灯の増設や歩道・自転車道の整備を進めるとする一

最高で最低の4年間を過ごしたご時代のできた友人たちは一生の友であり、卒業後15年以上経つ今も仲良く遊ぶ親友として過ごしています。友情は見返りを求めないと言いますが、社会人になると変に利害関係を気にして友情を築くことも難しくなるかもしれません。大学時代のまだ何者でもない、何かになろうとしている時代の友達は本当の友達と言えます。同好の士を集めるなんて無理という方もいるでしょうが、オンライン上に貴方と共鳴する人は必ずいます。探しましょー!

共鳴できる相手を探す時間も含めて、大学時代は間違いなく時間があります。感性の高いこの時期に自分の専攻を学ぶことは当然として、そのために大学に来たんだよね?、世界の名著、古典とも言える作品を読み、名作とされる漫画を読み、友達と集まりアニメ長編や映画の24時間耐久視聴をし、同人誌を作るなど青春を深めてください。幅広い素養と教養、漫画、アニメ、ゲーム、映画の知見は幾星霜積み重ねられて昇華し、教養と結びつくと、未来の貴方を必ず助けるでしょう。若者に旅を勧める方も多いですが、教養や知識があった上で行う旅はただの自分探しの旅より100倍の内容の濃さがあります。まずは教養から身につけてください。人生は短いですが、貴重な素敵な4年間で、私の手紙を読む時間なんてもったいない!

さあ、自分の好きなことに全力になってください。卒業して15年経っても、大学時代にやりたい先輩からの経験に基づいたアドバイスですよ!(平成18年度人文学類卒、写真は本人提供)



手紙

「いや、私なんか皆様に偉そうに語る事はないんで……ほんとういませー」

私は筑波大の卒業生ですが、何かが優れていたわけではなく、いろいろなことを経験していくうちに、偶然性の果てに流れ流れているようなお仕事をしています。このような生き方もあるんだと一つの道として示すことができれば幸いです。

大学生活では学業でも部活でも、圧倒的上下関係、理不尽に次ぐ理不尽と無理無茶無謀を乗り越えて、手加減一発岩をも砕く、という日々を過ごしたおかげで、社会人になってもアルハラ以外の過酷な環境や理不尽に耐えられたのは、本当に貴重な経験でした。

漫画『べらんぢ』の恋愛要素を引いたような

貴重な『今』を大切に



中東コーディネーター 鷹鳥屋明さん

方、今後の警備については「可能なことについては協力させていただくが、大学の理念である『開かれた大学』が壊れるようなことほしくない」と説明した。

先輩として悠仁さまを迎えることになる宮地優太さん(生物2年)は「キャンパス内や授業にどのような変化が出るのか分からないが、同じ大学に通えることがうれしい。可能であれば実験や実習を一緒にしたい」と語った。(川畑悠成)

時期に自分の専攻を学ぶことは当然として、そのために大学に来たんだよね?、世界の名著、古典とも言える作品を読み、名作とされる漫画を読み、友達と集まりアニメ長編や映画の24時間耐久視聴をし、同人誌を作るなど青春を深めてください。幅広い素養と教養、漫画、アニメ、ゲーム、映画の知見は幾星霜積み重ねられて昇華し、教養と結びつくと、未来の貴方を必ず助けるでしょう。若者に旅を勧める方も多いですが、教養や知識があった上で行う旅はただの自分探しの旅より100倍の内容の濃さがあります。まずは教養から身につけてください。人生は短いですが、貴重な素敵な4年間で、私の手紙を読む時間なんてもったいない!

さあ、自分の好きなことに全力になってください。卒業して15年経っても、大学時代にやりたい先輩からの経験に基づいたアドバイスですよ!(平成18年度人文学類卒、写真は本人提供)

四重奏の調べに酔う

つくばリサイタルシリーズ



息の合った演奏を披露したほのカルテット= TRS 実行委員会提供

つくばリサイタルシリーズ「ほのカルテット」弦楽四重奏の魅力が解き明かす。1月25日、つくばカピオホール(つくば市竹園)で開かれた。約210人が足を運び、四つの弦楽器から生み出される調和のとれた響きに酔き入った。

同シリーズは筑波大の有志学生で構成される実行委員会が、クラシック界で活躍する一流の演奏者をつくばに招いて開催する連続コンサート企画で、今回は15回目となる。

ほのカルテットのメンバーは岸本萌乃加さん(ファーストバイオリン)、林周雅さん(セカンドバイオリン)、長田健志さん(ビオラ)、蟹江慶行さん(チェロ)の4人。2018年に結成された。23年には室内楽団体の登壇とされる大阪国際室内楽コンクールで第2位となった実力を持ち、YouTubeでのコンサート発信にも力を入れている。

公演は実行委員顧問の江藤光紀准教授(人文学部)が書き下ろした「弦楽四重奏第4番」シュンボジオンで開幕した。東西の哲学の対立と融和が3楽章にわたって表現された楽曲だ。

演奏後は林さんと蟹江さんが弦楽四重奏の魅力やカルテットの結成秘話などを、軽快なトークを披露した。

2曲目のプリテン作曲「弦楽四重奏第2番」に続き、演奏会を締めくくったのがベートーベン作曲「弦楽四重奏第7番」ラズモフスキー第1番だ。

壮大なスケール観のある第1楽章、スケルツォの第2楽章を経て、哀愁ある第3楽章が丁寧に弾き上げられた。第4楽章は躍動感ある展開でフィナーレを迎え、観客を魅了した。

林さんは「観客の集中した視線を感じられ、演奏してよかった」と話した。

実行委代表の関珠暖さん(目黒3年)は「日本ではオーケストラなどに比べ弦楽四重奏はなじみが薄い



自分ならではの紅茶タペストリーを作る参加者(1月20日、5C棟)

タペストリー作りで交流

紅茶好きの学生集まる

いれ終わった紅茶のティーバッグを使ってタペストリーを作るワークショップが1月20日、5C棟で開催された。企画者を含む計9人の参加者がそれぞれ好みの紅茶を持ち寄り、紅茶タペストリー作りを通して交流を深めた。

紅茶タペストリーは、使用後のティーバッグをカラフルな紙で包み、毛糸などで飾りつけた枝につるして作る壁掛け装飾だ。

参加者は互いに持ち寄った紅茶を飲み比べたり、菓子を食べたりしながら、タペストリー作りを使う枝や飾りつけを選んだ。

金色の紙でティーバッグを包んだらびやかなものから、薄い黄緑色で統一された落ち着いたものまで、参加者それぞれが唯一無二のタペストリーを制作し、その後記念撮影をした。

参加した医学類2年の女性「お気に入りの紅茶を見つけたって参加した。他学類の学生との交流が楽しかった。初めてのタペスト

難曲を大編成で熱演

オーケストラ・ウィル定演

つくば市を拠点に活動する管弦楽団「オーケストラ・ウィル」の定期演奏会が2月9日、ノバホール(つくば市吾妻)で開かれた。ロシアの作曲家、シヨスタコービッチの作品を中心に全3曲が演奏され、来場した約300人を魅了した。

オーケストラ・ウィルは、開演を彩ったのはシヨスタコービッチの「祝典序曲」。ファンファーレを想起させる華やかな管楽器のメロディーが印象的な曲



「交響曲第1番」ではピアノがステージ中央に置かれた(2月9日、ノバホール) = 川畑悠成撮影

り作りだったが、企画者分がかりやすく教えることで面白かった」と語った。

このイベントは東海林暁さん(芸専1年)が筑波大の学生志願者プロジェクト「T-ART」の一環として企画した。「冬季は気分が落ち込みやすく、楽しみを作りたい」という。紅茶好きで、空間演出デザインに興味があったことから、空間を彩るタペストリーと紅茶を組み合わせた企画となった。

東海林さんは「参加者には感謝しかない。さまざまな紅茶を持ち寄ってくれ、自分が知らなかった新たな紅茶の世界を知ることができた」とうれしそうに語った。(惣田賢斗、写真)



1月23日、筑波キャンパスで

授業が少ない。大学構内を歩き交う人々の姿もまばらとなり、いっそう寒さが際立つようだ。そんな時期にもお昼ときの学食は相変わらず活気に満ちている。何を食べるか「以前にどの食堂に入ろうか」と感嘆経験は、他の学食ではそう当たり前ではないらしい。普段はお世話にならないような食堂に足を延ばし、初めてのメニューに舌鼓を打つというのもこの季節ならではの楽しみかもしれない。(東風えまり)人文学類3年、写真も)

私の一本

本稿の寄稿にあたり、学生時代の思い出の映画や、現在私が専門とする数学や数学者を扱った映画が頭に浮かびました。今回は学生時代の思い出の映画を取り上げたいと思います。

時は1959年、米国のとある全寮制の高校。厳格な規律を重んじる学校に英語教師として新たに赴任してきたキーティング先生。先生は生徒たち

『いまを生きる』

ピーター・ワイアー監督

洞窟で昔の詩を読み合うという会である。ニールは仲間たちを誘い、「死せる詩人の会」の活動を始める。彼らは洞窟の中で、詩を朗読し、自分の夢や希望を語り合い、行動し始める。

ニールは演劇に自分の夢を見出し、ある舞台の主役の座を射止める。しかし、彼の父親は彼を医師にさせたがっており、彼の演劇への志を認めない。ニールは舞台の本番を見事に演じ切ったが父親は本番が終わったその足で彼を家に連れて帰る。

それから悲劇が起る。悲劇の原因はキーティング先生が生徒たちを扇動したことみならず、先生は学校を去る。

授業中の教室に最後に立ち寄ったキーティング先生に対し、「死せる詩人の会」のメンバーが起した行動とは？

映画の邦題『いまを生きる』の元になったのは、キーティング先生が授業の際に引用した詩の一節で、ラテン語「Carpe diem」(その日を摘め)。英語では「Seize the day」(この日をつかめ、今を生きよ)」という一節です。

私は、高校2年生の秋から翌年の初夏まで、米国メリーランド州ボルティモアに交換留学生として滞在しました。滞在中には何度か映画を見ましたが、『いまを生きる』(89年公開)は帰国直前に最後に見た映画です。

た。当時、さまざまな自由を感じた米国生活の最後はこの映画を見て、米国でも、規律や大人の価値観に縛られた、自分と同年齢の少年たちが描かれていたことに驚くことも、自分の心の声に耳を傾けることの大切さも感じました。

皆さんは、今、自分の心の声に耳を傾けていますか？ 皆さんが今、またはこれから本気でやりたいことを心の声から見つけ出し、それに向かって一歩を踏み出すことを願っています。私も年が改まるたびに、仕事でも趣味でも「今年も(小さなこと)でよいので、何か新しいことをやろう」と思い、日々チャレンジしています。

照井章 准教授 (計算機数学)

数理物質系・准教授。筑波大学院数学研究科博士課程中退。博士(理学)。筑波大数学系助手などを経て2011年より現職。趣味でホルンを吹く。筑波大ピアノ愛好会顧問。

チーフとした14の変奏曲が続く。建築家の友人をイメージした第7変奏は大きく雰囲気を変え、力強いティンパニとトロンボーンの色が響いた。

同オーケストラのコンサートミストリスを務める湯田茜音さん(フ医P1年)は「15回目の節目で、大編成で難易度も高い3曲を選曲した。先輩方に助けられながらも楽しく演奏できた」と語った。(山本貴世)

退職教員4人に聞く 教育者・研究者人生の軌跡

総合大学として幅広い分野の教員を擁する筑波大。今春定年退職する4人に、これまでの研究・教育人生の歩みを聞いた。(松尾有姫)比較文化学類、山本貴世(国際総合学類)、小野さくら(生物資源学類、青野心平(物理学類))

日本のスポーツ振興にまい進

専門はスポーツ科学だが、コーチングから地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄に向けたスポーツマネジメントまで、研究分野は幅広い。「研究材料は現場に落ちている」をモットーに、得られた成果を現場にフィードバックし、そこから新たなチームを見つけて出し続けてきた。兵庫県出身。中学2年時の授業で体験したハードル走が陸上での初めての出会い。経験したことがないリズム感に引かれ、手製のハードルで練習を始めた。



尾縣 貢 教授 (体育系)

「チャンスは何度でももある」

その一方、日本のスポーツ振興にも尽力してきた。

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

翌年には「自己流」ながら全国大会で優勝を果たした。

全国高校総体(インターハイ)の100mハードルで優勝し、体育教師を目指して筑波大に進学した。

だが、ハードル走の記録が伸び悩み、大学1年時の陸上部顧問は水分補給や休憩を積極的にとり、短時間冬に十種競技に転向。砲丸

投や棒高跳など未経験種目の練習に1年間明け暮れ、3年時には日本学生対校選手権(インターシテ)、4年時は日本選手権を制した。

筑波大大学院進学後も競技を続け、後輩に敗れたことを契機に競技を断念した。その後は大阪女子大や奈良教育大の教員を経て、1994年4月に筑波大体育科学系(体育系)講師に就任する。96年には体育科学の博士号を取得した。筑波大では研究の傍ら、2001〜06年まで陸上部の監督を務め、チームを2度のインターカレ男女ダブル優勝に導いた。他の教員と3年制博士課程コーチング専攻(現コーチング学学位プログラム)を立ち上げ、後進を数多く育成したことも功績の一つだ。

その一方、日本のスポーツ振興にも尽力してきた。

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

妊娠高血圧症の研究に貢献

生体内分子の動きを調べる機能生物化学が専門で、ヒトの寿命や老化、生活習慣病発症のメカニズム解明などに取り組んできた。1990年代に開発した「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

「つばは高血圧マウス」と「妊娠高血圧マウス」は高血圧研究のモデル動物として今も世界的に使われている。

血圧調節に関わる酵素とホルモンがレニンとアンジオテンシンだ。レニンが肝臓で作られた酵素のアンジオテンシノーゼンを切断し、アンジオテンシンⅠ(ATⅠ)というホルモンができる。ATⅠが変換されたアンジオテンシンⅡ(ATⅡ)には、血管収縮や腎臓



深水 昭吉 教授 (生環系)

胎児間の物質のやりとりがカギを握ることが判明した。「妊娠高血圧マウス」は少しの自信と研究の再開を与えてくれたと語る。札幌市出身。研究学園都市にあり、1979年に農林学類(現生物資源学類)へ進学。1人の矢学生宿舎で一人暮らしを始めたが、宿舎の同級生たちとすくなく打ち解け、楽しい学生生活を送れたという。「南極に行きたい」という好奇心から、卒業研究では南極産オキアミのたんぱく質分解酵素の精製をテーマに選び、生化学の基礎を学んだ。

レニン・アンジオテンシン系の研究を始めたのは大学院修士課程2年時。博士

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

本を読み活字を



坪内 孝司 教授 (シス情系)

東京練馬区生まれ、横浜市育ち。電子工作が趣味だった父親の影響で、小学生の頃からラジオ製作が好きた。抵抗器や真空管などの部品が身近にあり「小学生で真空管を手にとった」という貴重な経験がきたと振り返る。

高校3年時の夏につばはを訪れ、自然豊かな土地に新しく作られたキャンパスに魅力を感じた。さらにプログラムの授業が必修であることが先進的だと思い、進学を決めた。卒業後は理科教師になり、卒業後自然学類に入学した。卒業要件として必要だった他分野科目として、情報学類の「人工知能概論」を履修したことが工学系の転機となった。

担当の金山裕教授(当時)の気さくな人柄に引かれ、

物理学から情報学へ

専門はロボット工学。移動型ロボットが障害物を回避して目的地に達する経路計画の研究などに取り組んできた。2001年に出版したロボット設計に関する著書「はじめてのロボット

創造設計」は文部科学大臣表彰に輝き、今でも改訂版が出るロングセラーだ。14〜16年度には工学システム学類も務めた。

その一方で、筑波大の教育改革の方針と計画を立案する教育デザイン室の室長を20年度から4年間務めた。22年度からは先端教育推進機構長に就任するなど、筑波大の教育改革を先導してきた。

よく質問をしに行く中で、大学院に行くのなら、ロボットをやらないか」と声をかけられた。「ロボットは電子工作の塊で、小中学生の時の虫がうずいた。分野として新しくあったことが魅力的だった」という。

これをきっかけに大学院で学問を専攻していた物理学者から情報学へと転向し、博士号を取得。研究者になった。「筑波大で学んだこと、出会った先生や同級生など全てが宝物だ」と筑波大への思い入れは強い。

「105%の力を出す」と自分がなりたい生き生きとした生活を送りたい。印刷用の文字を活字と言った文章(文字)を仕事も、やるとなれば毎日の考えをまとめることに活用することが、まさに活字だ」と言う。「今後も、筑波大の教育改革推進に携わらう」と話している。

小学校の体育用副読本や陸上競技の解説本などを50冊以上手掛け、陸上競技の解説者としてNHKなどに登場してきた。

こうしたスポーツの多面的な向き合いが高く評価され、日本陸上競技連盟会長や日本オリンピック委員会(JOC)専務理事などスポーツ界の要職もこなしてきた。昨年のパリ五輪では日本選手団長として選手活躍を支え、スポーツの価値を伝える活動にも従事した。

現在は東京2025世界陸上財団の会長として9月に東京で開かれる世界陸上競技選手権の準備を進めている。定年退職後は研究やコーチ業から離れ、自分を見つめなおす時間を持ちたいという。

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「チャンスは人生で何度もやって来る。それをものにしよう。」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

「偶然の発見をきっかけに」

増尾 弘美 教授 (人社系)

97年に筑波大文芸・言語学系(現人文社会学系)の助教授に就任。比較文化学類の学生向けに仏文学を講義する傍ら、ジャポニスムや同性愛、プルースト作品に見られる自己批判や同時代

「自分だけのこだわりを持って」

近年はプルーストと同年代の詩人・評論家のポール・ヴァレリーにも関心があり、退職後も研究を続ける。

「自分だけのこだわりを持って」

追いつけ

専門はフランス文学。特に大作『失われた時を求めて』で知られるマルセル・プルースト(1871〜1922)の著作を読み解く研究を続けてきた。

外国文学に興味を持ったのは中学時代。ヘルマン・ヘッセの『アムン』や『車輪の下』に見られる青年期の心理描写に引かれた。大学では、明治学院大文学部フランス文学科に進学。「仏文は外国文学の中でも高校まで触れることが少なく、未知の世界に飛び込みたい」と考えた。「仏語は古い規則が残る、論理的なアプローチが報われる

「自分だけのこだわりを持って」

「自分だけのこだわりを持って」

追いつけ

専門はフランス文学。特に大作『失われた時を求めて』で知られるマルセル・プルースト(1871〜1922)の著作を読み解く研究を続けてきた。

外国文学に興味を持ったのは中学時代。ヘルマン・ヘッセの『アムン』や『車輪の下』に見られる青年期の心理描写に引かれた。大学では、明治学院大文学部フランス文学科に進学。「仏文は外国文学の中でも高校まで触れることが少なく、未知の世界に飛び込みたい」と考えた。「仏語は古い規則が残る、論理的なアプローチが報われる

蹴球部5人がプロ内定会見

「地域沸かせたい」「人間性も成長」

サッカーのクラブ入団が内定した筑波大学蹴球部員の合同記者会見が昨年12月2日に大学会館で開かれた。角昂志郎(体専4年)、沖田空(同4年)、半代将都(同4年)、福井啓太(同4年)の内定選手5人と小井正亮(体育系・准教授)が登場した。



内定先のユニフォームを着て手を重ねる選手ら(昨年12月2日、大学会館で) = 川畑悠成撮影

サッカー

蹴球部は昨年の天皇杯2回戦で、当時J1首位だったFC町田ゼルビアをPK戦で破るシャイアントキング(大番狂わせ)を達成。3回戦でもJ1柏レイソルを延長戦にまで追い込み大きな注目を集めた。MF角はJ2ジュビロ磐田に内定。昨季と今季の関東大学リーグでベストイレブンに選ばれた。また、U23(23歳以下)日本代表として一昨年のアジア大会にも出場した。「天皇杯の町田戦が印象に残っている。最後のPKでは自分が想像していた以上の球を打てたと振り返った。J1湘南ベルマーレに内定したMF田村は「技術だけでなく人間性でも大きく成長できた4年間だった」と話した。身長165センチの小柄ながらも、巧みなドリブルによるチャンスメイクへの評価が高い。沖田は攻撃的な仕掛けを得意とする大型サイドバック。J2水戸ホリールホックに内定した。鹿島アントラーズユース、筑波大に続き茨城県内のチームへの所属となり、「地域の人々を沸かすことができる選手になりたい」と笑顔を見せた。

箱根駅伝 小山3区で11位相当 「来年は筑波大で本戦」



海岸沿いで平塚中継所に向かって走る小山(1月2日、神奈川県茅ヶ崎市で)

【神奈川県茅ヶ崎市で川畑悠成】知識情報・図書館学類1年、写真も)第101回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日に開催され、小山洋生(体専3年)が関東学生連合(関学連)チームの一員として往路3区(21・4区)に出場した。関学連はオープン参加のため参考記録となるが、小山は区間11位相当の1時間2分55秒で3区を駆け抜けた。関学連に筑波大の選手が選出されるのは2年ぶり。

陸上

筑波大は昨年10月の予選会で18位となり、5年ぶりの本選出場を逃したが、小山は予選会の個人記録で全

体22位、日本人9位と、関学連のメンバーに選出された。小山は「うれしさもあったが、自分だけ本戦を走ることになり、森川蒼太(流通経済大)から

小山は「うれしさもあったが、自分だけ本戦を走ることになり、森川蒼太(流通経済大)から

ベスト8で敗退

宿敵明治にPK戦で

サッカーの学生日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月7、28日に行われた。筑波大は同22日、8チームによる決勝ラウンドのノックアウトステージ1回戦で明治大と対戦。0-0のまま延長戦でも決着がつかず、PK戦(4-5)で敗れ、8年ぶりの優勝はならなかった。

サッカー

それを勝ち抜いた8チームによるトーナメント(フットアウトステージ)を合わせた方式になった。筑波大はCグループを1位で突破し、Aグループ2位だった明治大とフット

世界でも頑張っている」と選手らにエールを送った。ウツステージでいきなり当たることとなった。今季は天皇杯で勝利したものの、関東大学リーグでは1分1敗で、明治大に優勝を許して2位となっていた。前半は互いに攻め手を欠く展開が続いた。中盤からは明治大が攻勢に出て、同45分には左サイドから走り込んだ相手にシュートを打たれたが、GK佐藤留実(体専3年)が好セーブし、両者無得点で後半に続いた。後半も明治大が序盤は攻めをさせた。後半12分には強風に流されたボールをシュートされるも、佐藤が再び止めた。その後は、DF福井啓太(同4年)とJ2RB大宮アルディージャ内定)らの堅守で筑波大に流れが傾く。同19分にMF廣井蘭人(同2年)がセンターからシュートを打ったが、

それを勝ち抜いた8チームによるトーナメント(フットアウトステージ)を合わせた方式になった。筑波大はCグループを1位で突破し、Aグループ2位だった明治大とフット

広告欄

掲載のお問い合わせは shinbun@un.tsukuba.ac.jp までお願いします。

中原・広瀬組全日本8強

五輪メダリストに善戦

バドミントンの日本一を決める全日本総合選手権が昨年12月24、30日に武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)で開催された。筑波大の中原鈴(体専3年)・広瀬未来(同3年)のペアが女子ダブルスでベスト8入りを果たした。

バドミントン

大会は予選を勝ち抜いた全国の有力者が本選をトーナメント形式で戦う。中原・広瀬ペアは昨年10月の全日本学生選手権(インカレ)で優勝した勢いに乗って本大会に臨んだ。1回戦は青森山田高校(青森市)の小山涼風・徳永結妃ペアと対戦。第1ゲームを21-12、第2ゲームを21-14で奪うストレート勝ちで、高校生ペアを寄せ付けなかった。2回戦は相手ペアの棄権で不戦勝となり、準決勝へと駒を進めた。対戦相手は五十嵐有紗(BIPROGY)・櫻本絢子(ヨネックス)ペア。五十嵐は東京・パリ両五輪の混合ダブルスで銅メダルを連続獲得したトップ選手



コート手前のシャトルを打ち返す中原(右) = バドミントン部提供

第1ゲームは中原・広瀬ペアが得意とする低い弾道で素早く打ち合う低空戦に持ち込んだ。シャトルの浮きを抑える会場内の空気が流れも味方し、格上相手に3ポイントで11点先取のインターバルを迎えた。後半は相手も低空戦に対応してきたが、21-19で第1ゲームを先取した。続く第2ゲームではコートチェンジによる空気の流れの変化も確かなショットや疲労から流

れをつかめないまま14-21でゲームを落とし、ベスト8での敗退となった。今大会については中原は「観客が多く緊張したが、準備してきた全を出し切った。ベスト8入りより、トップ選手から1ゲームを奪えたことは今後の自信につながった。この経験を基に実業団選手にも通用する実力を身に付けたい」と意気込んだ。広瀬は「実業団選手相手に自分たちの低空戦が通じたことは自信になった。次の大会に向け、1回1回の練習を大切にしていきたい」と今後を見据えた。2人は有力選手が参加して今年5月にさいたま市で開かれる日本ランキングサーキット大会に出場し、上位進出を目指す。

Who's Who?

「M-1」最優秀アマチュア

イツキ さん (芸専4年)
乙女ブレンド アソヌマ さん (社学4年)



プロを目指し活動が続いていく乙女ブレンドのイツキさん(左)とアソヌマさん(本人提供)

イツキさんの冷静でナンセンスなボケやぼそとしたフリに、アソヌマさんがパワフルな早口で突っ込む。「ネタを音とリズム感で覚えてもらう。乙女ブレンドの漫才は音楽だ」という。

コンビの誕生は偶然だった。初めての出会いはお笑いサークル「つくはお笑い集団DONPAPA(現筑波大学お笑い集団DONPAPA)」の新歓。ピンでネタを披露するつもりだったイツキさんにアソヌマ

当初はアソヌマさんがボケでネタも書いていたが、デビューライブ前に先輩にネタを見せる

プロ目指し活動続ける 漫才は音楽だ

漫才コンビとしての手懸えをつかんだのは2年時の秋。「辞書」という漫才を思いついた時だ。イツキさんが単語を言い、アソヌマさんが早口で長文で単語を説明していく。東京のライブで披露すると、観客が拍手をしながら大笑いする「拍手笑い」を体験した。その後は、このスタイルを差風として、ネタを作り出していった。そして生まれたのが現在のオハコ「早口言葉」だ。イツキさんが繰り出す早口言葉のフレーズに対し、アソヌマさんがお手本を見せ、さらに早口言葉を説明も加える。その繰り返しが観客の笑いを生み、最後はアソヌマさんが疲弊して終わるというネタだ。

3年時にはこれを武器に漫才白本一決定戦「M-1グランプリ」で3回戦に進出。4年時には「早

乙女ブレンドのこれから更なる進化が楽しみだ。川畑悠成(知識情報・図書館学類1年)

次号は

4月2日(水)

発行予定です

発行所 筑波大学印刷リフォーム

ほか編集部21人

え、筑波大生のアルバイト事情も聞きました(4面)。つくは市在住の被爆者2人へのインタビュー(8面)となりました。新メンバーならではの紙面をお届けしていきます▼本紙マスコットキャラクター名が「つくは」に決定しました(1面)。これから一緒に紙面を盛り上げてくれるはずですが、緊急度が低いのに救急搬送された患者を「選定療養費」の徴収対象とする制度の開始(1面)や、地球温暖化対策を意識した学食メニューのカーボンフットプリント(CFP)表示(2面)は、筑波大生の生活にも直接関連する話題です。(編集長・山本貴世(国際総合学類2年)▽副編集長・松尾有希(比較文化学類1年)、川畑悠成(知識情報・図書館学類1年)ほか編集部21人)

編集後記

【編集・発行】
筑波大学新聞編集委員会
▽委員長 内海真生(生命環境系・教授)▽水環境生態工学▽副委員長 中澤秋夫(学生部長)▽委員 秋山肇(人文社会学系助教)▽憲法・平和研究、嵯峨寿(体育系・准教授)▽レジャー・スポーツ産業論、時井真紀(図書館情報メディア系講師)▽情報表現、物性理論

「未来は若者たちにかかる」

被爆者2人からの伝言 被団協に平和賞

核兵器廃絶を訴えてきた被爆者の全国組織「日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)」が昨年12月、ノベル平和賞を受賞した。今年も戦後80年。つくは市在住の2人の被爆者、村上啓子さん(87)と鶴文乃さん(83)に受賞の意義や若い世代に期待する言葉を聞いた。「未来は若者たちにかかっている」とう人は口をそろえた。(川上真生(社会学類3年)、川畑悠成(知識情報・図書館学類1年))

「若い世代が種まく時」
村上啓子さん(広島で被爆)



村上啓子さん

努力してきた被爆者や被爆者を支えてきた人たち、これまで核廃絶に向けて思いを共有してきた全体的に平和賞を授与したのだらう。核廃絶に向けて

「世界中が当事者意識を」
鶴文乃さん(長崎で被爆)



鶴文乃さん

平和賞受賞で、日本被団協が訴えてきた原爆被害に世界中の注目が集まった。

九州のある高校で被爆証言をしたことがある。自由参加で2人しか聞き手がおらず、引率の教師に謝られた。翌年も一度証言に行くこと、150人の生徒が集まった。2人が周囲に話を広めてくれたのだ。

被爆証言の継承方法が議論されるようになったが、今ごろ考え始めている時点で遅すぎる。若者

「世界が当事者意識を」
鶴文乃さん(長崎で被爆)

「世界中が当事者意識を」
鶴文乃さん(長崎で被爆)

は、必要だと思っただことを持って行動に移す力を来は若者たちが築くと信じている。

「点と点が線になる」
熱・構造



追跡「結」プロジェクト

動作試験始まる
「点と点が線になる」



回路にプログラム通り電気が流れるか確認するメンバー(1月16日、総合研究棟Bで)

と、治具が激しく揺れてしまい、衛星の試験に必要な振動が適切に伝わらない恐れがある。そこで、打ち上げ時に加わる数センチから3000程度の振動を水平方向と垂直方向から治具に加え、共振しないことを確かめた。担当した鈴木穂高さん(工学系2年)は「今後は、治具に衛星を入れて振動試験を行う。治具が共振をしないことが確かめられ、一歩前進できた」と話した。

「点と点が線になる」
熱・構造

熱や衝撃に強い本体設計を進む。

衛星の通信などに使うプログラムを開発した「コマンドアンドデータハンドリング(C&Dh)系」のメンバーたちは、メモリーにプログラムを書き込み、回路の電流値が正常であることを確認した。担当した黒河一真さん(工学系1年)は「試験では、他のチームが設計した回路の動きも分か

と、治具が激しく揺れてしまい、衛星の試験に必要な振動が適切に伝わらない恐れがある。そこで、打ち上げ時に加わる数センチから3000程度の振動を水平方向と垂直方向から治具に加え、共振しないことを確かめた。担当した鈴木穂高さん(工学系2年)は「今後は、治具に衛星を入れて振動試験を行う。治具が共振をしないことが確かめられ、一歩前進できた」と話した。